

## 名誉会員 加藤豊明先生の遠逝にあたり

日本医史学会評議員 岩 治 勇 一

本学会名誉会員の加藤豊明先生は、平成九年九月二十一日に遠逝されました。享年九十二歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は明治三十八年大阪で出生、長じて旧制大阪高等学校に学び、昭和八年金沢医科大学を卒業されました。のち京都帝国大学医学部病理学教室へ入門、内田病院勤務（金沢市、産婦人科）、昭和十年細川病院産婦人科医長（広島県比婆郡東城町）、同十二年富山県氷見町に開業、同十五年吹田鉄道診療所兼大阪鉄道病院産婦人科医長代理、昭和二十三年三国病院副院長、同二十五年「軟レ線放射の家兎血液像に及ぼす影響に関する研究」により学位受領、同二十八年石動厚生病院院長、同三十一年七尾市立産院長、同三十三年一月から産婦人科外科医院開業（金沢市野町四―一二〇）。

先生は金沢を永住の地とされて以来、文芸活動をはじめ社会的活動にも多彩な事蹟を遺されました。例えば、法務省人権擁護委員（昭和四十一年～同五十八年）、金沢市医師会監事（昭和四十三年～同五十六年）等々、また、剣道は範士（大日本武徳会範士会参与）といった特異な側面をもっておられました。執筆が得意で石川県医師会報に精力的に医事隨筆を投稿されてきました。それらの中には医史学的にきわめて貴重な記述もあり、度々質問して史実の出所などの教示を受けました。

医史学的に評価の高いのは、藩政末期の加賀藩医史で、金沢大学医学部百年史、金沢大学医学部才一外科百年史等に

著述が収められております。

昭和五十八年六月北陸医史学同好会（昭和五十四年設立、故高瀬武平会長）の二代目会長に就任、先達リーダーとして北陸地方の医史学発展に多大の寄与をされ、体調不自由のため、平成四年会長を岩治へ委託されました。会長時代の業績は「北陸医史」に克明に記されております。

剣道藩士の風格は、そのまま文書に如実に示されており、書家としても、立派な余技を遺されました。

いま、泉下の先生から受けました学恩に対し深謝し、重ねて哀悼の辞を捧げます。 合掌